

令和6年度 第3回総合計画審議会 会議記録

■開催概要

- 1 日時 令和7年3月24日（月） 14:55～16:40
- 2 場所 第1委員会室
- 3 委員の出欠状況 18名中16名（うち2名書面による意見提出）
- 4 事務局職員
小野企画経営部長、鈴木企画経営部次長、阿部企画課課長補佐、近藤主査

■会議録等の取扱いについて（令和6年度第1回審議会決定事項）

委員の合意により、会議録等については、次のとおりとなった。

- 1 公開を原則
- 2 会長以外の発言は個人名を付けずに「委員」というかたちで会議録掲載
※そのため、発言中、委員の特定となる部分についても、意味内容が変わらない範囲で調整
- 3 審議会の委員名簿は公開

■会長あいさつ

▽年度末のお忙しい中参集いただき感謝する。

前回に引き続き基本構想の改正について、審議をお願いしたい。幅広くとらえて欲しい、また深掘りしてほしい。基本構想は次の次に繋げる力を持つ必要がある。立場や角度を変えてみて欲しい。その後、全く違う方向から見て欲しい。実りある審議会にしたい。

■議事事項概要及び結果

会長により、以下のとおり議事進行

議事(1) 基本構想変更にかかる方向性について（資料1、2）

事務局（阿部企画課長補佐）から、資料1、2に基づき一括説明。資料に対する質問はなかった。

意見交換

▽資料2が課題に対しての位置づけとして整理されている。文化観光はすべてにまるがついているのでこれから重要なキーワードであるとわかりやすい。本部会議でも整理されているので、基本構想は変更不要と考える。この課題を後期計画にどう位置付けるか、細かく入れられるかを今後審議したい。（委員）

▽基本構想は変更不要と考える。多賀城政庁跡の復元をするか否かここで決める話ではなく、計画内容や予算規模もなにもわからない段階である。事務の一つではあるので矛盾はしない。どこをどう微調整するか、今後意見を述べる機会があればよい。（委員）

▽資料2 基本構想変更にかかる方向性に記載された、起業しやすい環境への取り組みのインキュベーターが気になる。創業塾や商工会に繋ぐような取組みは行っているが、集まる場としてのイメージのインキュベーターと言えるほどの施設を多賀城市で構えられるのか。東北学院大学がないので、産学連携も難しい。多賀城市は小規模な創業が多いため疑問である。また、高橋地区での創業が増えているが、南門や政庁跡と対極にあるので賑わいが分断されている印象がある。（委員）

→（小野企画経営部長）個別の事業については、来年度皆さんと相談したい。起業したい方には、商工会の力を借りて力づけ支援や補助金支給を行っているが、ネットワークが薄いのが課題である。

→高橋地区が盛り上がっているが、市の構想は東北学院大学跡地や南門周辺を盛り上げたいと考えていると思われる。各地で賑わいが創出できると良いが、どこに拠点を置いて賑わいを創出させ

るか。インキュベートのような一拠点とした設定が難しい。（委員）

→（小野企画経営部長）母子健康センターが、1～2年後にはエントランス棟に移転する。庁内でコンセンサスを取っていないが、空いた場所を上手く活用できないか、チャレンジショップやサポーターを配置するなど考えている。駅に近くて人通りが多い場所と考えると中央地区が好ましいと考えられる。また、新しく整備した南門の駐車場の何区画か、無料でキッチンカーや移動店舗をできるような制度を整えたが、半年以上利用がない。

→（会長）賑わいは外から人が来るもの、地元、若者など様々種類がある。基本構想での議論は難しいが、関係部署で検討していただき、統制が取れた賑わいを描けると良い

▽多賀城政庁跡の復元整備に関心がある。宮城県が主体で行うので、まだ詳しくわからない段階であるが、市川地区や浮島地区の地域をどう位置付けるか。歴史的風致として位置付けたものがどう関連するか。多賀城政庁跡だけに絞らず、周辺地域の活性化をどう図るか。（委員）

→（小野企画経営部長）市川地区の方々とまちづくり懇談会を開催し、市川地区の将来について話し合いをしている。第六次多賀城市総合計画では、多賀城政庁跡の復元は究極的な目標としてあるが、具体的には記載はしていない。宮城県の計画がきっかけになって地域が盛り上がっているので、一緒に進めたい。

▽基本構想は変更不要と考える。市民や行政など、みんなにとって良いものであるか充分審議されるものであれば、次回の基本構想で問題ないとする。（委員）

▽基本構想は変更不要と考える。文化観光の側面から考えると、南門というランドマークができた。周辺整備として、館前遺跡の周りに湿地があるので、池のようなものがあると景観がよくなると考える。（委員）

▽基本構想は変更不要と考える。東北学院大学跡地について確認したい。ミサワホームのパス図や新聞報道があった。民間開発であることから、市として関わりが難しいことは理解する。体育館とプールの構想は市が関与している。子育て支援施設への市の関わりはどうか。また、広場の運営には市がどう関わるのか。（委員）

→（小野企画経営部長）子育て支援施設にはいろんな構想があるが、子育て計画との整合が図られる必要がある。今は、保育施設と相談機能を備えることを考えられているが、方向性は定まっていない。また、広場は、催し物ができるような屋根のあるものを想定されている。公益性が高ければ、多賀城市にて管理する可能性もあるので、東北学院大学跡地の住民だけでなく、周辺地域の方々が身近に使えるような話を進めたい。

→（会長）使われている様子を思い浮かべながら構想を組み立てて欲しい。

▽基本構想は変更不要と考える。多賀城政庁跡の復元については、周辺整備も必要になる。塩釜に続く道でもあるので、整備されるとよい。子育て支援の場所として、子どもたちの居場所や保護者の集い合える場所が地域で作れるようなことを考えていきたい。（委員）

▽基本構想は変更不要と考える。資料2に子育て支援にあつては保護者自身の「子育て力」を最大限に引き出すことと記載があるが、ハードルが高い。共働き世帯が多い中で、自分の子に接する時間が短くなっており、子ども会への参加も両極端になっている。子育て力や子ども自身の育つ力を伸ばすことは、とても難しい時代だと実感している。次回以降の細かい計画策定の中で、長い目でこの力を付けられるような取組みが行えると良い。（委員）

→（小野企画経営部長）子育て力を高めるのはとても難しい。どうやって実現するか、福祉部門だけでいいのか、文化芸術のような大きな力を活かしてみたいとも考えられる。東北学院大学跡地に計画している体育館は、体育館らしくないものを構想している。参考にしているのは、立川駅

近隣にあるプレイミュージアムである。子ども達が自主的に想像力や感性を豊かにしていく取り組みが子ども自身の育つ力に繋がり、親御さんが子育ての楽しさに改めて気付けるような、これまでは異なる体育館を検討している。

→（会長）多賀城市震災復興計画策定に携わった際に、災害復興住宅の２階にベビーカーを持って仕事ができるようなスペースがあるとよいと意見があった。これを応用すれば、子育て支援だけでなく、賑わいにも関わるので横串を刺すような事業になる。多賀城市がやらなければならないのは、横串を刺すような仕組みづくりである。ニュータウン開発の先進事例である成田の山万では、子どもから高齢者まで柔軟な空間政策を行っている。様々な部署で知恵を出し合うと、進化やアイディアが出てくる。宮城県にはどこにもないので、ブランディングにも繋がる。

▽基本構想は変更不要と考える。（委員）

▽基本構想は変更不要と考える。参考資料１ 専門部会意見にある、説明する際に変わらないとは説明しない方が良くに賛同する。同じと言われると、変わりがないなら見ないという発想に繋がる。市民に動いてほしいならば、説明方法に工夫があると良い。例えば、構想について名前を変えて説明する等よいと考える。説明の仕方の変更や名前の魅力、相手の興味を引き立てるようなアピールに工夫があってもよい。（委員）

→（会長）一番若いので、質問したい。今後多賀城市に暮らしたいか、理由は何か。

→暮らしたい。不満があるわけじゃない。下馬付近に住んでいるが、駅やスーパーが近くにあり、ふべんを感じないので、これ以上求めていない。現状満足しているので、基本構想に興味がなくなってしまう。（委員）

→（会長）言い換えると便利なまちがよいということである。文化ではなにかあるか。

→やかもち鍋である。小学校の授業で郷土料理として紹介された際に、最近作られたものであり、昔からあるものではないと言われ、見えるものだけでなく、自分で作るものも文化のものと認識できることが印象的だった。見えるだけが全てではないと感じる。（委員）

→（会長）若い人が集まって知恵を出し合うとアイディアが生まれる。

▽基本構想は変更不要と考える。読み方によっていろんな捉え方ができる。深堀りする際に具体的に伝わるような形でできるとよい。新しいまちや新しい施設ができるのは楽しみであり、新しい企業はSDGsをととても意識しているので、障害の方が来ても問題ないようなまちづくりをしていただけるとよい。まちが新しくなるのはよい。体育館については、宮城県内にパラスポーツの拠点がないので、入れていただけるとよい。（委員）

▽南門付近の整備について、専門部会では千載一遇のチャンスとコメントがあり、なかなかこのような機会はない。市川地区の農家は、ここ30～40年史跡として整備され始めてから、開発などでだいぶ制限されてきたと聞いている。伝え方だとは思いますが、基本構想を変更してでも市川地区のことを考える機会として見せてもいいとも考える。基本構想はすぐに変えられるものなのか。（委員）

→（小野企画経営部長）計画期間の中でできることを考えて変更することになる。

→基本計画に入れて、市川地区の方々と話し合いを進める姿勢を見せるべきか。（委員）

→（事務局）基本構想を変えるには、市民と話し合いを重ねて議会の承認を得られれば変えることができる。

→今年の１月に出たばかりの話なので、準備段階である。今までどおりで大丈夫と言い切るのではなく、余地を残した方がよいと考える。（委員）

▽いかに具体化するかが重要である。まだ具体化までは入っていない。地域活動について、興味が

あっても出てくる人は同じで、中々広がりがなく、自主活動に限界がある。皆さん忙しく、後継者問題もある。（委員）

→（小野企画経営部長）変えない方がいいこと、より良い方向に変わっていくものがある。子ども達にとって、どんな世界になったとしても、一定のコミュニティや人との関わりは大切である。今までは子ども会や地域だったが、これからも同じ形がいいのか、新しい形がいいのかは難しいところである。

→（会長）全国同じような問題がある。地縁的な繋がりから SNS のようなネットワーク型に若い人は強く影響されている。地縁的な繋がりを持たなくてよいと考えている人が増えている。防災の視点からまとめると意外と人が集まる。特に被災地は繋がりが強くなりやすい。地域活動の集まりの時間帯や内容など角度を変えるだけで、集まる人や意見が変わる。中々難しい問題ではあるが、違う切り口から若い人を輝かせるやり方もあると思われる。

→東北学院大学跡地に引っ越してくる人たちが、市外からの転入者よりも、市内転居が多いだろうと聞いたことがある。（委員）

▽町内会の現状は、日本全国一緒である。防災に関わるラジオで、町内会活動や地域における人付き合い＝防災と言っていた。阪神淡路大震災のときに倒壊家屋等から助けられた 8 割の人は、地域住民が助けた。地域の状況が把握できるから助けに行くことができた。地域に自分の存在を知ってもらうことが、防災・減災に繋がる。市の防災訓練も大事だが、風化して参加者が少なくなってきた。市全体としてどうあるべきか検討してほしい。（委員）

→（会長）共助について、東日本大震災の時でも立ち直りが早かったところや交通途絶でも生き残ったところは町内会がしっかりしている。例えば、共通の救命用具などを作り、メンテナンスで人を集めて会話が生まれてくる。ただ集めても集まらないので、考える必要がある。

▽（会長）欠席者の意見を事務局からお願いしたい。

→（阿部課長補佐）委員から、基本構想は変更不要、施策の後期目標値は強弱をつけてほしい、全てを達成しなくてもよいとご意見があった。別の委員から、文化観光は多賀城市の重要な魅力の一つとして挙げられると思うため、今後力を入れるべきと思う。総合計画の認識について、「地方自治体の全ての計画の基本となり、地域づくりの最上位に位置づけられる計画」というものであるのは理解しているが、それが行政にとって、町内会にとって、市民にとって、どんな位置づけになるのかについて改めて考えたいと感じた。それぞれの立場にとってどんな役割を果たすのかを考えれば、誰のための施策・目標なのかがわかりやすくなるのでは？と感じたとご意見があった。

▽（会長）基本構想については変更なしでよいとまとめさせていただきたい。

→異議なし。

議事(2) その他

事務局（阿部企画課長補佐）から、資料 3、3-2 に基づき一括説明。資料に対する質問はなかった。

意見交換

資料 3-2 について、意見をいただいた。

▽（会長）防災減災対策の推進を見ると、町内会のキーワードを入れるのは難しい。私たちの目標と記載すると主語は分かりやすいが、他人事に見えてしまう。関連する部署や施策を書いた方が、巻き込めてよいと考える。町内会の立て直しが密接に関わっていることや子育て支援からのシナ

ジー効果を生まれることなどわかれると良い。全てではなく主なものだけ記載できると良い。後期計画に入れるのが難しいならば、実施計画でもよいと考える。また、K P I の管理だけではなく、連携が出来ているかわかるので検討いただきたい。

▽総合計画は行政計画なので、行政が主語にならざるを得ない。市民向けのワークショップを行うならば、施策に対してどういう関わりがあるかご意見をいただき、市民目線でこれをやると別冊にするのもよいと考える。全てに1対1で対応はしないが、市民に当事者意識を持って関わってもらうことに意識をしてもよい。市民に関わってもらうプロセスを大事にした方がよい。(委員)

▽この計画を市民が見るのは、紙に印字した冊子か、ネットで公開されるのか。(委員)

→(企画経営部長) ネット上での公開を予定している。

→文章が長い。インスタグラム等SNSのように、子育てのようなハッシュタグをつけて関わりがある方に時短で見てもらえるような、全部見なくともキーワードを見ただけで伝わるような仕組みづくりができるとよい。いかに伝えるか、見る側の時間を無駄にせずに伝わりやすい方法を検討してほしい。(委員)

→市のアプリ等も情報量が多い。自分の興味があるところだけ見れるような仕組みがあると良い。情報量が多いと見ない。(委員)

→(会長) 使えるようなものを検討してほしい。総合計画のかかるたを作るのも面白い。

▽情報量が多くて受け付けない。詳しく載せることも大切であるが、別冊でイラストなど接しやすい冊子を作って、追記イメージの目標を入れるのもよいと考える。見やすいものときっちり読むものを分けてもいいと考える。(委員)

▽学校のホームページから子育てに繋ぐページだけ載せるなど、施設ごとに繋がりやすいキーワードを載せると情報提供しやすいと考える。(委員)

▽WEB上で、各施策や具体的な事業の担当部署がわかるとよい。協働団体が増えるとも考えられる。連携先として市民団体や民間の企業名が見えるようになると計画に取り組んだことがわかりやすい。市民の参画の余地があると理解できるような計画になるとよい。(委員)

▽手元に欲しいタイプなので、手に取れるものは欲しい。手に取りやすいものとじっくり読めるものは公共施設にあるとよい。体育館移転アンケートについて、ただ置いているだけでは手に取ってもらえないが、自分事として捉えてもらえるように繋げると手に取ってもらえた。自分から取りにいかないとわからないものが、もう少し取りやすいものになるとよい。(委員)

▽コンセプトカーのような、手に取るときに夢のある物が表紙になっていると手に取りやすいと考える。(委員)

▽(会長) K P I の設定の仕方で、事業の進捗にとって生き生きとしたものになるよう統制を取っていただきたい。

■事務局からの連絡

▽令和7年度第1回開催は、令和7年5月を予定。別途日程調整をさせていただきたい。

以上